

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.138

2017.4.3

発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL019-684-2225

FAX019-684-2227

国会に届けよう！平和を願う 岩手からの声を

～「戦争に道を開く安保法制を廃止し、新任務の撤回、憲法9条を守りいかにした

平和貢献を求める請願署名」(目標5万筆)～

◆署名数 15,698筆 (3/20現在) ◆

南スーダン PKO に派遣の自衛隊の5月撤退が決まりました。しかし、今回の署名は安保法制廃止が請願の重点です。くらしの基本は平和であること。署名数は集約中ですが、目標にはまだまだ足りません。海外での武力行使を可能にする憲法違反の安保法制廃止を求め、平和を願う声を引き続き集めていきましょう。

4月7日(金)は一斉署名行動日！

平和憲法・9条を守る岩手の会で毎月9日に実施の街宣行動ですが、4月は7日(金)に実施し、この日を一斉行動日にしたいと思います。各組織で通常行っている場所のほか、下記の場所でほかの9条の会と合同で行っても構いません(その場合は、人数を把握したいので、事務局までお知らせください)。

◇盛岡市大通「野村證券前」 12:00～12:45

◇盛岡市ホットライン肴町入口付近 12:00～12:45

◇盛岡市津志田「ユニバース盛岡南店」(盛岡南ショッピングセンターサンサ) 10:30～12:00



9条川柳やライブで平和への思いを新たに

—都南・9条の会 春を呼ぶ平和のつどい開催—

毎年恒例のつどいを2月19日に開催。はじめに、世話人会代表の田口宗一さんが講演し、日本人医師がアフガニスタンで用水路をつくり、砂漠が緑の大地に生まれ変わった活動を紹介。憲法9条を持つ日本の、武器を持たない国際貢献のあり方を示しました。続いて、

春を呼ぶ 平和のつどい



「9条川柳会」を開催。参加者が五・七・五にのせた平和への思いを持ちより、交流しました。

最後は、こどもたちの平和な未来を守るパパ・ママの会いわて代表の高橋奈々子さんによるライブを実施。全国パパ・ママ会のテーマソ

ングとして歌われた「私たちはみんな、愛されて産まれた」も披露。「誰の子どもも殺させない」という一言に、胸を打たれて曲を付けたことなどを語ってくれました。ほかに、「糸」「翼をください」「涙そうそう」などを参加のみなさんとともに歌い、みんなで平和や沖縄への思いを新たにしました。

9条川柳会 最優秀賞
根を張った 平和憲法 動かない

今月の署名行動

4月街頭署名行動は、上記の通り7日(金)を統一行動日として、実施します。新年度になりました。気持ちも新たに取組んで行きましょう！

憲法施行 70 年。現憲法は日本国民がつくったことを再認識

—北上九条の会 映画「日本の青空」上映会—

2月26日に、憲法施行70年の節目と自民党等による改憲論が巻き起こる情勢を踏まえ、44名の参加で開催しました。映画では、現憲法が制定される課程でGHQが鈴木安蔵ら憲法研究会の草案を手本にしたことを描いています。誰が作ったが問題ではなく、日本の国会で審議し議決した以上、現憲法は日本国民がつくったもので、安倍首相など改憲論者が言う「押し付け憲法」ではないことを再認識。参加者からは、「多くの苦難の末にできた憲法を変えるなんてもったいない」「心が洗われ勇気が出た」などの感想が出されました。

「日本を戦争できる国にさせない」ために、今後もスタンディングや街頭宣伝・署名行動、講演会や学習会等に取り組んでいきます！



映画「母」上映をみんなで広めましょう！

3月21日に閣議決定された共謀罪は、現代版治安維持法の復活とも言われ、民主主義や人権の根幹が破壊される危険性がある法律です。

映画「母」は、治安維持法違反の口実で拷問を受け、29歳で命を奪われた作家小林多喜二の母セキの生涯を描く劇映画で、三浦綾子原作の小説をもとに、寺島しのぶ主演で製作されました。3月18日に、上映をひろめる岩手の会結成会が開催され、盛岡では7月6日PMに試写会、9月29日に本上映3回（目標1,000人）を行います。

再び戦前のような時代にさせないという思いを新たにさせてくれるのはもちろん、母と子が互いを思いやる心温まるドラマとしてもいい映画です。9条をまもる岩手の会も、今後チケット配券など上映運動に協力していきます。

コラム = これが首脳会談！？ 首脳会議！？ 皆さんはどう思いますか（その4）

このシリーズで、先の日米首脳会談では「日米同盟第一」と「日米二国間交渉（通商）」でトランプ大統領が満面の笑顔であったことを指摘しました。その後、同「首脳会談」を受け、両政権No.2による「経済対話」等の準備、「手回しの良い」安倍政権の「アベノミタリー・外交」の展開など、着々と静かに進められていることに国民は気付き始めていると思います。その時の「看板」は、「中国脅威論」の振りかざし。それによって国民は、「仕方ないかなあ...！」と思う節は無いでしょうか？「情報過多」の報道の中であっても、その中に一過性ながら「中国の言い分」が見られます。まずはそれを見てみましょう！

それは中国海軍の内部誌に、同海軍南海艦隊の将校らが執筆していることです。「南シナ海での軍事主導権の獲得により『中国の威嚇効果が高まり、周辺国が軍事的に挑発してくる可能性は低くなった』、『時間の経過とともに力のバランスはわが方に有利になる。軍は民間を隠れみのにするやり方で敵に対応し、こちらから第1発を撃ってはならない』、米軍との対立では『米軍はアジア重視戦略・リバランスでの布陣が未完成で、南シナ海で軍事衝突や戦争を起こす力量と意図はない』、『軍事危機』が発生する可能性はあるが、当面は本格的な軍事衝突や戦争には発展しないと結論付けた」とのこと。

中国に肩入れする訳ではないが、尖閣諸島周辺の公海を航行する中国軍艦の艦列に対して、日本の自衛艦が割り込みをしたり、その艦船の数十メートル上空で自衛隊のヘリコプターが接近しすぎて警告を受けたり、公海上空を飛行する中国の戦闘機に自衛隊の戦闘機がスクランブルしたりすることなども、中国に対する「周辺国が軍事的に威嚇」と受け止められてはいないでしょうか。相手の言い分を聞く必要もあるのでは？コラム子の取りこし「苦労」でなければよいと思います。(T)